

阿波ブランドの開発・確立支援事業 (ヒジキ養殖試験)

牧野賢治・團 昭紀・荒木 茂・宮田 匠

近年、外国産ワカメの輸入の増大により単価が下落，付着珪藻の増加，雨不足による色落ちなどで，ワカメの単価がますます下がり，漁業者の収入が減少したという問題を抱えている。当研究所ではこのような問題を解決するために，ワカメ漁場の調査、ワカメの優良品種作出研究を試みているところである。本研究はワカメに変わる藻類養殖として，日本ではまだ試みが少ないヒジキの養殖に着目し，その養殖技術の確立を図ることを目的とした。

材料と方法

限られた漁場面積で、より多くのヒジキを生産できる養殖技術を検討した。試験区₁は20mのワカメ養殖用ロープに、天然の岩礁に自生している長さ約10cmのヒジキを採取し、それをワカメ養殖用ロープに5cm間隔で挟みこんだものである。試験区₂は試験区₁のヒジキ付きロープを2本使用して、それぞれのロープをクロスに縫りこんだものである。試験区₁、試験区₂を10m×20mワカメ養殖枠に設置し、生長を比較した。

結 果

試験期間は平成14年11月29日から平成15年4月28日までおこなった。その結果、試験区₁、試験区₂ともに生長に差がなく、全長40から50cmに生長していた。収穫量については、試験区₁が34.2kg、試験区₂は46.6kgであった。試験区₂は試験区₁の2倍の種ロープを使用しているにもかかわらず、試験区₁の約1.5倍の収量であった。今後、さらなる検討が必要である。



写真1 試験養殖枠



写真2 生長したヒジキ